

1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

標準偏差値50.7

3. 指標にむけての取組

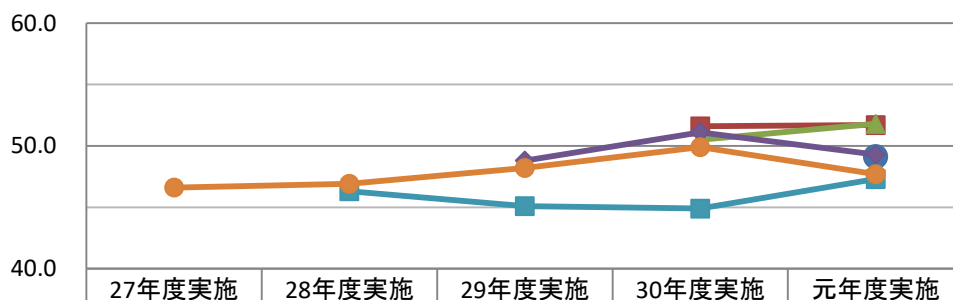
- 指導方法を工夫改善していく。(習熟度別学習など。)
- 日常的な授業改善を進める。
- 家庭学習の充実を図る。
- PDCAサイクルを短期で機能させる。(単元末テストの前に習熟を図る。実施後に補充学習を行う。)

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
本校(A)	48.7	48.6	48.4	50.3	49.5
嘉麻市(B)	50.8	50.7	51.5	51.4	51.1
(A) - (B)	-2.1	-2.1	-3.1	-1.1	-1.6
標準偏差値との差 (A) - (50)	-1.3	-1.4	-1.6	0.3	-0.5

各学年の推移



	27年度実施	28年度実施	29年度実施	30年度実施	元年度実施
● 元年度1年生					49.1
■ 元年度2年生				51.6	51.7
▲ 元年度3年生				50.5	51.8
◆ 元年度4年生			48.8	51.1	49.3
■ 元年度5年生		46.3	45.1	44.9	47.3
● 元年度6年生	46.6	46.9	48.2	49.9	47.7

5. 各学校における分析

成果指標である標準偏差値50.7を超えることができなかった。

○重要単元において、指導方法工夫改善教員が指導方法を工夫し、習熟度別分割授業を行ったことで、基礎・基本が定着していない児童に対する補充的な学習を充実させることができた。

○研究テーマに基づく授業を全学級が公開し、「問いづくり・思考づくり・価値づくり」のある授業の日常化に向けて取り組むことができた。

○家庭学習や学級裁量の時間などを使って意図的・計画的にアシストシートを活用することができた。

○単元テスト後に、複数体制で到達度プリントに取り組む時間を設定したが、個別指導を充実させることが不十分であった。

6. 各学校における今後の取組

○令和元年度のNRT学力検査の課題を整理し、指導方法工夫改善教員と連携して習熟度別分割授業を充実させる。

○主題研究に基づく研修において理論と実践を深めることで、日常的な授業改善を進める。

○基本的な生活習慣の確立と家庭学習・自学の習慣化に向けての取組を充実させる。

○単元末テスト実施前に習熟を図るとともに、実施後にきめ細かな個別指導を行うことができるように、指導方法工夫改善教員と連携を図る。

○教科書にある練習問題等に繰り返し取り組む時間を設定する。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した思考を伴う「書く(かく)活動」や目的のある「話し合い活動」を核とした授業づくりを推進する。また、「問いづくり・思考づくり・価値づくり」の視点をもとに授業改善の取組を推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「学力向上に向けた授業づくりの8つのポイント」や「書く活動ポイント9」を活用することができるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定したりする。